

檀信徒・霊園使用者各位に発行しています。

お盆がやっつきます

春の日差しにうつらうつら過ごしていたら、気がついたらもうお盆の時期になっていました。光陰矢のごとし、軽んずべからず、です。

通販サイトで、小学生の時に愛読した本を見つけてきました。子供たちに読ませようと購入しましたが、自分で読み耽っていました。懐かしい本を読んでいると、当時のことが思い出されます。ボクは大人になつたらどんな人間になつてゐるのだろうか、

そんなかわいい少年でありました。あれから30年。こんなになつちやいましてすいません、と小学生の自分に謝りたい気持ちです。30年と言わず、ついこの間、悲しいお葬式をしたのに、気がついたらお盆、あれ一周忌三回忌。そう思うことがあるかもしれません。しばらくぶりにご先祖様としてお帰りになるお盆会。できれば、元気で健やかな姿をお見せしたい物です。

お盆の精霊棚の飾り付け一例です。ご参考にしてください。



- ① テーブルにマコモを敷く
- ② 四方に笹を立て麻縄で結ぶ
- ③ 位牌香炉燭台花等を飾る
- ④ 茄子や胡瓜で馬と牛を作る
- ⑤ 蓮葉に夏野菜の粗みじん切りと生米を乗せる「水の子(みずのこ)」、腕に清水を満たした「関加水(あかみず)」を供える
- ⑥ 膳をつくり供える
- ⑦ その他、そのめん、果物など夏の食物を供えください。お盆セットがスーパーなどで売っていますが、詳しくは住職までお気軽にお問い合わせください!

法話のコーナー

冷暖自知

れいだんじち

夜、寺務仕事の合間にニュース番組をハシゴしてみるんですが、同じニュースでも各局各番組によって、解説の仕方がずいぶん違うものだなあと思えます。政治経済から事件事故、パンダの赤ちゃんまで、どの番組を見るかによつて、物事に対しての見方が影響される訳で、インターネットの情報まで含めると、どれを信じ、どれを疑えばいいのかからなくなつてしまいます。情報過多社会と言うそうです。情報が、これからは、巷にあふれるいろんな情報を自分で選んで行く必要があるそうです。本当に大事な情報を見分ける能力が求められるというので、テレビを見るだけなのになんだか緊張してしまいますね。

しかし、本当に必要な情報は、実はそれほど多くないように思います。どうしたら安楽な気持ちで生きていけるのか。どうやったら心に抱えるこの苦しみを克服していけるのか。いづれにしても、我々が生きていく上で、本当に大事な、解決しなくてはいけない事柄は、自分自身の中にある、そして、それは自分自身によつてしか解決しない、と言うのがお釈迦様のお考えです。他から与えられた

情報や方法では、本当の安心(あんじん)にはならない。意外かもしれませんが、自己の問題の解決のためにお釈迦様は決定的な答えは教えてくれません。自分で「苦を見つめ、苦を考えよ」。目をそらさずに、真摯に自己の問題と向き合え、逃げるな、騒ぐな、じつと坐つて、考えるのだ。そうおっしゃるのみなのです。その考えるための方法が、「坐禅」なのです。足をしっかりと組み、姿勢を正して安定して坐る。そうすることで理想的な「考え事」をする形ができあがりま

す。私も南禅寺の修行道場に入門して、初めて本格的な坐禅に入ったときは、なかなか苦勞しました。じつと坐つて考え事をしていろいろの事柄が頭に浮かんできます。過去の失敗や、恥ずかしかったこと、ほしい物のこと、食べたいメニューが次々と、足が痛い背中が苦しい。内面どころではなく坐つてしまっています。それでも坐つていけると、様々な疑念が生じます。こんなことをしていてなんになるのか。無駄ではないか。痛む足を解いて、また友達と遊びたい、横になつて眠りたい。その時期を乗り越えようと、やがて様々な事柄が浮かんで消え、浮かんで消え、そんな風になつてきます。そんなときふと、坐禅堂の外から、鳥のさえずりが聞こえてきました。あれ、鳥なんていたのか、全然気がつかなかった。そう思いました。居なかつたわけはないのです。鳥はずつと近くで鳴いていた、それが耳に入ってきていなかったと言っただけです。そのとき、気がついたのです。私が悩もうが苦しもうが、そんなことはお構いなしに、世間は動いている。いままで自分の心は世の中とは違う、特別な物だと思ひ込んでいた。私が居るから世界があるのだと、どこかでそう思っていた。そうではなかつた、私はその中の一部であつただ、世界が自然に動いていくように私も自然にここに居るのだ。

そう気がついたとき、体中の力ががくつと抜けたような気がしました。体中に満々の力を込めて坐つていたので、座布からバタツと落ちそうになりました。居眠りしてると思われて、警察で叩かれましたが、心の中は笑い出しそうになっていました。いままでもなんと格好つけて、意地を張つて、生きてきたことだつたか、そんなに無理しなくてもよかつたのに。ああ、楽になつた、と思ひました。みんなによく思われたい、好かれたい、スゴイと言われたい、そういう心がずつとありました。大学時代に



コラム 仏事に関する よもやまばなし

お釈迦様のお葬式をどうするか。当時はもめにもめたようです。たぐさんの弟子たち、家族、親戚。それに信者たち。信者には王族もいれば貧者もいる。盛大に、いや質素に、こうしたいあーしたい。みんなお釈迦様を心から敬愛していましたから、その心意気を示したくて仕方が無いのです。結局お釈迦様の御遺言「当たり前にせよ」で決着しました。

この場合の当たり前は「インド式武家の葬送儀礼」を指します。お釈迦様は御武家の出でずからそれが当たり前であったのです。この葬送儀礼にあったのが鎖籠（さがん）という作法。遺体を入れた棺を鎖で閉じる儀式です。今では、鎖の代わりに釘を用い、釘打ちを鎖籠、と言っています。この「釘打ち（鎖籠）」が、省略される場面をよく見るようになりまし

た。葬儀に出かけると、さちんと釘打ち鎖籠を行う事の方が少ないかもしれません。残念なことだと思えます。

ある葬儀の折り、驚いたことがあります。担当する葬儀社は俳優さんを起用したテレビCMで有名な葬儀屋さん。曰く、お葬式のプロがお手伝いいたします、云々。式前の進行を決める打ち合わせの時、なんとなく「釘打ちは予定に入っていないですか？」と聞いてみました。「いえ、特に」。そこで「特段の理由がないなら、釘打ちも大事な儀式ですから、きちんとやってください」とお願いしました。通常釘打ち鎖籠は、葬儀社の担当者が、釘を棺に半分程度までうち、その後参列者で、すこしづつ打ち込んでいきます。私はその間は「往生呪」というお経を唱えています。担当者の協力は欠かせません。しかし私のお願いに、進行役の担当者がモジモジ。「じつはやったことがあります。びつくりしました。葬儀の進行まで任せられる人が、釘打ち鎖籠をやったことがないなんて。最近ではほとんど皆さん省略されるので・・・」と言いますが、それにしても、葬儀のプロを自任する人が「やったことない」なんてあまりにもお粗末。とても葬儀のプロとはいえない。看板にいつわりアリです。その担当者は釘打ちの意味も知らなかつたようで、その場で説明すると、「そうなんですか」ですつて。こんなところでも、「ちゃんとした葬儀屋さん」と「そうでない葬儀業者」の違いがわかるものです。その葬儀では、担当者に替わって私が釘打ち鎖籠を



して、無事出棺しました。仏式の葬儀は基本的に、お釈迦様の行われた葬儀儀式と同じ方法をとります。それが仏教徒にとって死者への最高のはなむけになるからです。亡き人へ、最高の礼節をつくし、最大の敬愛をもってお送りするために、大恩教主釈迦牟尼と同じ儀礼を行うのです。訳も知らずに勝手に省略なんて、言語道断というものです。確かに釘を打つのが乱暴にみえたり、ふたが開かなくてカワイソウなんていう人もいますようですが、

それは思い違いです。丁寧に葬儀に、棺のふたを「閉じて差し上げる」のです。たしかに一昔前に比べると、葬儀式の中でも大がかりな準備を必要とするもの、手間とお金がかかるものに関して、だいたい省略されるようになってきました。しかし釘打ちするには手間も準備もたいしたこと無いのだから、曖昧な理由で省略しないで頂きたい、と思うのです。たくさんの人を呼ばなくても、お金をかけなくても、立派な葬儀はできる。それは、本当のプロの葬儀屋さんの力量と、亡き人に対する愛情があつてこそ。そしてきちんとした儀礼を行うことで成り立つのです。

我が輩はニヤンである

我が輩は猫である。名前は・・決まっていな。オクサンと下の子たちは「ニヤンさん」と呼び、オバアチャンと上のお姉さんは毛並みの色からシルバーと呼ぶ。先代とは黙って見つめ合う。住職は私の顔を見ると「にゃあ」と猫語で話しかけてくるので仕方がなしに「にゃあ」と返事をする。日中は境内をパトロールしているのを見かけたら、好きな名前でも呼んでくれた

我が輩は猫である。名前は・・決まっていな。オクサンと下の子たちは「ニヤンさん」と呼び、オバアチャンと上のお姉さんは毛並みの色からシルバーと呼ぶ。先代とは黙って見つめ合う。住職は私の顔を見ると「にゃあ」と猫語で話しかけてくるので仕方がなしに「にゃあ」と返事をする。日中は境内をパトロールしているのを見かけたら、好きな名前でも呼んでくれた

{せ} あいうえお用語辞典 (ぜん)

私たち、禅宗。お釈迦様がお悟りになるために用いたのが坐禅。立つてたら疲れるし寝そべると眠っちゃう。だから静かに坐つて考える。流行のマはちよと違う。流行のマ

インドフルネスとは全然違う。自分の心の事、他者との関わり、どうやって生きるか、どうやって死ぬか。「自分で考える」のが禅。

お知らせ

この「宝泉寺報」は、霊園使用者の方、檀信徒の方々にお配りしておりますが、最近、親戚や、子供の家にも送ってほしいというご要望がありました。

そこで、ご希望があれば各家のお施主さん以外の方にもお送りしたいと思います。送ってあげたい人の名前、住所、ご自身との関係(子、孫、友人など)を添えて、HP、メール、FAX、お手紙などでご連絡ください。

〒193-0944 東京都八王子市館町344 宝泉寺 TEL/FAX 042-661-3353 info@housenji.net

宝泉寺墓地使用規則について

宝泉寺八王子南霊園が開園してから40年以上経ちました。代替わりをなさった方も多く、墓地の使用規則をよくご存じない方もいらっしゃるようです。使用規則は、お互いに気持ちよくお墓参りや、墓地の継承を行うには、なくてはならない決まりごとです。そこで近々、改めて使用規則を作成し、配布いたしたいと思っています。内容は従前のものと変わりませんが、時代背景を考慮した物にしたいと思っています。何とぞよろしくご理解を頂きたいと思ひます。

住所変更、名義変更のお願い

墓地の名義変更やお引っ越し、また郵便物の郵送先を変更したい方は必ず管理事務所に申し出て、名義変更届、重祚変更届を提出してください。大切なお知らせが届かないことがあります。よろしくお願ひいたします。



「たくあん石の悟り」

著者、勝平宗徹老師は、大本山南禅寺元管長にして、昭和40、50年代に南禅寺専門道場のお師家様(指導者)であつたお方です。当山宝泉寺の山号額を書いてくださった老師様です。松江で過ごされた小僧時代から、修業時代を経て指導者になるまでの半生記ですが、残された著作はこの一冊だけ。能筆で謹厳なお方で有名でした。普段親しく口をきくことのできな

い老師様がどんな思いでいらつしやるのが、本當に正直に書いてあります。最後は不慮の事故で亡くなりましたが、昭和を代表する名僧です。インターネット通販で手に入ります。当時の定価は950円。山手書房。

霊園だより

霊園管理事務所から
梅雨に入りはじめとした日が続きますが皆様いかがお過ごしでしょうか。まもなくお盆がやつて参ります。お花・お線香をご用意して皆様の墓参をお待ち申し上げております。是非ご利用ください。また墓参りに気になつた外柵のズレや目地の欠けなどの修理、落ちにくい水垢掃除、墓地香の事などありましたら管理事務所にお問い合わせください。もちろんお見積もりだけでも結構です。のでお気軽にどうぞ。

畑山